

良識ある保守主義・情報公開

# 吉田つとむ

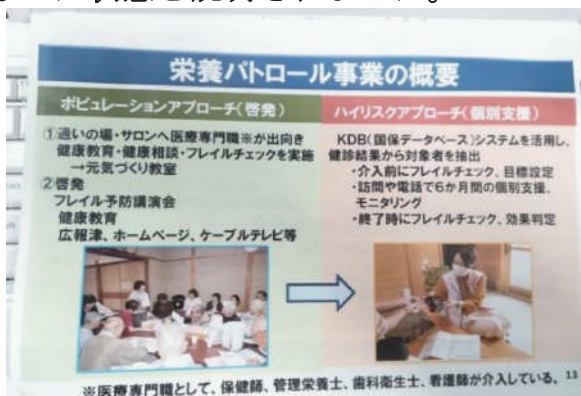
町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市  
成瀬が丘 1-14-12  
サンホワイト E103-13  
☎ 042-795-7361 (FAX: 必  
要に応じて186を頭に加える)  
議会 042-724-2171  
yoshidaben@gmail.com



## 津市フレイル予防栄養パトロール事業

平成の大合併で面積: 711.19 km<sup>2</sup> (町田市: 71.55 km<sup>2</sup>の10倍)になった三重県津市は、旧来の町村エリアにも保健センター・保健師の配置を維持し、高齢者の健康事業を図っています。その事業の中心が、津市フレイル予防栄養パトロール事業です。\*「フレイル」とは、加齢とともに筋力や認知機能が低下し、生活機能障害や要介護状態の危険性が高くなった状態と説明されました。

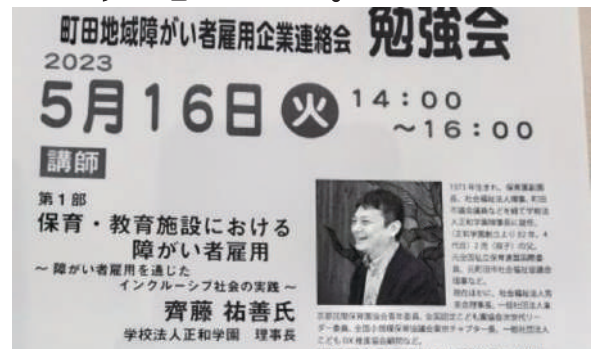


地域担当医療専門職(保健師、管理栄養士、歯科衛生士)がハイリスクアプローチ(検診でチェックし、抽出する)+ポピュレーションアプローチ(出前や広報による啓発活動)するものです。利用者の増加があって、行政が行っている事業を高齢者自身や、ヘルスポランティア(健康づくり推進員、食生活推進員)の変換が重要で、それらの人が啓発事業を展開するサロンリーダーをつくるとしています。外部に人出を求めるのは、今後の子育て促進事業の拡大で、子ども部門に職員が大勢移動することが必要とされるためであり、無償民間ボランティアの有償化が早急に検討されるべきものだと思います。

## 障がい者雇用勉強会に参加

町田地域障がい者雇用企業連絡会が開催した「障がい者雇用セミナー」に参加し、障がい者雇用を先駆的に行っている、学校法人正和学園 齊藤祐善理事長の講演を聴きました。参加者が一般の事業所、あるいは保育や幼稚園、児童施設の従事者も見られたのはそのためであったのでしょうか。齊藤祐善理事長が園の経営者に留まらず、その現場にも造詣が深い面がよくわかりました。\*私は旧来から障がい者雇用の課題として、その就労が月額1万円程度で良しとされてきたことを改善する取り組みが何より重要と議会発言しています。

講演では、精神の障がいの人を採用した経緯、あるいは実際の就労の状況に関する説明がありました。一緒に働く側が旧来の考え方、対処の仕方では混乱が起きる事態をどのように対応したか、あるいはどのように対応すればスムーズに変化するのか、あるいは障がい者雇用を通じて、仕事の進め方のとらえ返しができたことなどが具体的に語られました。期待すべきは、それらが記述されたり、映像化したものが作られることです。さらに一般にも分かりやすくそれが出来たら、もっと障がい者雇用の普及、収入の増大が進んで行くのだろうと思いました。



◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう!

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる  
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

# 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは  
左記を読込  
して送信



好評インターンシップは、  
夏季の第52期生を募集開始

## 小牧市の母子保健手帳の改善について

健康福祉常任委員会の視察で訪れた愛知県小牧市では、母子健康手帳に国が求める必須事項に加え、小牧市独自でユニークな内容を付加しています。目的は、子どもの自己肯定感、親の眼で見た肯定感を達成するために追加したというものです。国は6歳まで記入するようにしていますが、小牧市は15年間(中学校を卒業する)使用しているようで、医療機関が内容を見てわかるように医療項目も作成されています。当然、親子で理解できるように作成されており、命のループ→親から子どもが20歳になった時、最高の宝物としてプレゼントするように定めているとのことでした。



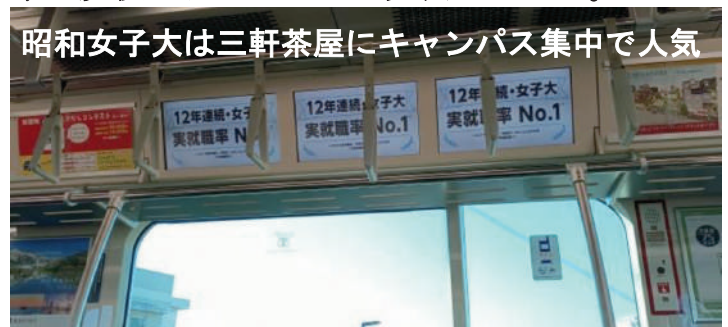
この小牧市の冊子は、挿絵や構成の色使いに見やすさを心がけて作成されていますし、アドバイスの内容がページごとにあふれています。町田市でもこれを見本にすれば、もっと良いものが出来るのではないのでしょうか。そうした意味では、この小牧市 親子健康手帳の全ページが一葉ごとにネット掲載されれば、他に転用したい自治体や関係者により普及するのでは無いかと考えた次第です。さらに、親子健康手帳の電子化を国が導入すると、もっと改善が進むでしょう。

## 大学のキャンパス移転と残された自治体

健康福祉常任委員会の視察で訪れた草津市がとびぬけて高齢化率が低い理由として、大学生が多くいる(立命館大学びわこ・くさつキャンパスが立地し、在学生が多数居住する)ことがあると思いました。視察対象が異なっていたので直接話を聞いたわけではありませんが、立命館大学では、学生数の多い学部の移転を計画し、その実施の直前になっていました。\*立命館大学 HP 資料:2024年4月、情報理工学部・情報理工学研究科を、大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)へ移転するわけです。

その学部は学生数だけで2000人近い人数が在籍し、教職員、一般職員などで4-500人は存在するでしょうから、他の関連を含めると、総数で学生の倍の員数の移転、転業に影響を及ぼすであろうから、人口:137,321人の自治体にしたなら、計り知れない施策の転換を必要とされるでしょう。行政と大学の話し合いは何度も行われたはずですが、大学側の方針は既定事実として進展させているのでしょうか。東京でも大きな大学が郊外に立地したキャンパスから都心部に様々の学部を移転しています。

青山学院大は文系の青山移転で人気を高めました。町田市では東京家政学院大、多摩市では大妻女子大が都心に学部移転し、恵泉女学園大学が廃校スケジュールを発表しました。



昭和女子大は三軒茶屋にキャンパス集中で人気

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2023年3月末までに104名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。